

# 令和5年度 学校評価報告書

学校番号( 小10 ) 長崎市立( 西坂小 )学校

## 1 教育目標

「人間性豊かな、心身共に健康で自ら判断し、行動（表現）する力を持った、たくましい子ども」の育成

## 2 学校経営方針

- 1 児童や地域の実態を踏まえて学校教育目標や学年（学級）目標を設定し、その実現に向け、教育課程を編成し、P D C A マネージメントサイクルに則って計画的に実施する。
- 2 児童の心身の健康を確保し、児童が安心して生活し、学習できる居場所づくりに努める。
- 3 児童一人一人の良さや可能性を尊重し、知・徳・体の調和のとれた心豊かな人間形成に努める。また、一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育を行う。
- 4 一人一人の教師が教育専門職としての使命感と指導意欲をもち、資質及び指導力の向上に努める。また、高い倫理観を保持し、服務規律を遵守する。
- 5 校務分掌が機能し、職員相互の人間関係が信頼で結ばれ、共通理解・共通実践を行うことで、生き生きとした教育活動ができるようにする。
- 6 校地、校舎、施設等を整備し、安心安全で、清潔感あふれる教育環境づくりに努める。
- 7 地域の特色を生かした教育活動を展開し、保護者や地域の方々との相互理解・相互協力の下に、諸活動の成果を上げる。
- 8 毎日元気に子どもたちの前に立ち、子どもたちの未来につながる力を育む教育を行うために、働き方を見直し、校務を効率的に推進する。

## 3 重点目標

【学校の合い言葉】あいさつ・返事・ありがとう  
 「あいさつ」をすると人とつながることができます。  
 「返事」をすると、その人の決意が伝わります。  
 「ありがとう」の言葉で、感謝の思いを届けることができます。

## 4 自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート結果(R4)			アンケート結果(R5)			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			(肯定的割合・%)			
			児童生徒	保護者	教職員	児童生徒	保護者	教職員	
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	92	92	100	96	83	100	連絡なしで欠席している児童の確認を管理職が行ったり、繁忙期に短縮日課を実施して校務の時間を設けたりした。こうした取組が校内での働き方改革として職員にも評価されてきている。今後も、校務の縮減・効率化を進めていきたい。 学校目標や重点取組事項を保護者にどう発信していくかについては、検討する必要がある。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	94	93	100	97	98	100	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			92			92	
	業務の改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			69			85	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	92	92	100	98	96	100	全職員が、子どもたちや保護者に寄り添うことを学校の重点事項に位置付けて取組を進めてきた。「教職員は悩みや相談に親身に対応している」の項目について、児童・保護者の評価が昨年度よりも伸びたことは、日々の地道な努力が評価されたものと考えられる。これまで生活指導上の大きな問題もなく、落ち着いた学校生活を送れているが、それに安心することなく、今後も児童・保護者に真摯に向き合う教育活動を行ってきたい。 平和教育については、5年生の取組を西坂フェスティバルで発表したことや学校だより、ホームページ等で継続して周知を図ったことが保護者の評価につながったものと考えられる。
		挨拶をよくしている	91	90	100	93	94	100	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	94	83	92	98	81	92	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	94	88	100	100	98	100	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	92	95	100	91	92	100	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	99	93	100	100	96	100	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	100	88	100	100	94	92	
特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	98	96	100	100	94	100		
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	99	100	100	98	94	100	本校では、英語に関する学習活動に数年来継続して注力している。このことは保護者も認めるところであるが、今年度は保護者の前でその成果を披露する場が少なかった。そのため、特色ある学校づくりへの評価が減少したのと考えられる。英語に関する学習活動はこれまで同様、本物に接する機会を設けながら取り組んでいることに変わりはない。 家庭学習は、職員の努力だけできることではなく、保護者の協力があって習慣化につながるものである。評価の向上は保護者の努力の成果とも考えられる。今後も協力を促していきたい。 本校では学校での様々な活動が、なぜ必要なのか、どのような力につながるのかを子どもに伝えながら活動に臨ませている。そのことが、自立に向けた指導の評価向上につながったと考える。
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている	98	98	100	96	94	100	
		家庭学習の習慣が身に付いている	92	83	100	88	88	100	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	88	83	100	86	92	100	
長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである		97							

健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	96	98	100	100	94	100	コロナ禍の影響もあり、児童の体力の向上が昨年度からの課題であった。今年度の重点的な取組が浸透し、意識は高まっているが、数値として体力が向上しているところには至っていない。今後も継続して取り組む必要を感じている。 登校時刻が遅くなっている児童が数名いる。不登校傾向児童もみられる。家庭と連携を図り、改善に向けた取組を進めていく。
	体力向上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的生活習慣)が身に付いている	77	83	100	85	85	92	
		体力向上に努めている	93	91	100	91	98	100	
	食育	食に関する教育活動を行っている	89	95	100	91	96	92	
信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	100	98	100	100	94	100	本校は地域との連携が十分で、定期的に集団下校を行っていることで、安全管理については、一定の評価を得ている。コロナ禍が収まり、地域と連携した多くの行事が再開されたが、それに伴って、事前の準備等、関係者の負担が増加した。効率的な行事の開催に向けて、地域と協議しながら進めていく必要がある。 学校の状況は、各種の便り、HPで発信することができた。次年度も続けていく。
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	100	100	100	100	100	92	
	PTA・地域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	49	98	100	78	100	92	
	職員資質向上	研修が充実し、資質が向上している			100			100	
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	98	100	100	97	92	100	教育環境については、一定の評価が得られた。施設の老朽化は見られるが、掃除の行き届いた、美しい学校を目指して取組を継続していく。
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			100			100	

## 5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

- 今年度はコロナ禍が収まり、学校や地域の活動が次々に再開された中で「学校、保護者、地域、大人、子ども」がそれぞれの思いで、「活動を実施すること、やり終えること」に注力された1年間であったように感じる。今後は、教育効果を精査しながら、地域全体で活動の意義を共有しながら臨めるような仕組みを整えていきたい。
- 教育活動のあらゆる場面で、学校教育方針を意識した教育活動の推進ができていく。特に一昨年度から「あいさつ・返事・ありがとう」を合い言葉に、学校全体で取り組んでいることで、コミュニケーション力向上につながってきている。また、喫緊の課題である体力向上については、指導を継続していく。
- GIGAスクール構想における一人一台端末の活用が日常になったことで、家庭学習の在り方を教職員と保護者で共通認識をもちながら進めていきたい。また、日頃の授業においてもデジタル端末を活用した授業改善をさらに進めていかなければならないと考える。

## 6 学校関係者評価

- 先生方が日々努力されている様子がアンケート結果によくあらわれている。中でも、生活・生徒指導の悩みや相談に親身に対応しているについては児童が100%、保護者が98%と先生方が子どもや保護者に真摯に向き合っていたに大変ありがたいと思う。
- コロナ禍以降、体力の向上が課題となっているようだが、体力の向上は日々の積み重ねであるので、まずは体力の基礎となる走力の向上を図るような取組を工夫してほしい。また、西坂小の特色の一つである英語教育については、今後も地域や保護者への認知を広げてほしいので、地域や保護者がその成果を目にする機会を設けてほしい。
- 学校運営の業務の改善については、他の項目と比べると85%で評価が低いようであるが、昨年度の69%からすると随分改善が図られているようだ。働き方改革にも関係するだろうが、地域行事等へ先生方が参加しやすいような体制づくりを考えてもらいたい。また、今回のアンケート結果とは別かもしれないが、スマホやゲーム機等のデジタル端末の利用の仕方は気になるところである。子どもと保護者が一緒に情報リテラシーについて学ぶ場の必要性を感じている。

## 7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

- 学校評価アンケートで肯定的評価をいただいた内容については、それに安心することなく、今後も児童・保護者に寄り添いながら教育活動を行っていききたい。近年の本校の課題である体力の向上については、体育科の授業の際に必ず行う西坂セット運動の改良や準備運動前のランニング等、年間を通して行う取組を考えていきたい。
- 西坂小の特色の一つである英語教育については、これまで同様に英語にふれる機会を日課表に位置付けたり、児童の実践の場を設けたりするとともに、児童や教職員の過度な負担とならないように配慮しながら、保護者や地域の方が子どもたちが英語を楽しむ姿を目にできるような工夫を図りたい。
- 情報リテラシーについては授業の中で行うだけでなく、児童と保護者が一緒に学ぶ場の設定を実施に向けて地域や育英会と連携を図りながら行っていききたい。また、長崎ルールに基づいた家庭でのルール作りについてもより積極的に啓発を図っていく。

※「4 自己評価」の「項目」欄には、領域毎に空欄を設定している。ここには、重点目標に即し、学校独自の「評価項目」並びに「質問内容」を追加することができる。

<参考例> 読書活動、豊かな体験活動、部活動 等

※「4 自己評価」のアンケートは、4段階で回答するようになっているが、そのうち上位2段階を肯定的回答ととらえ、その割合(整数値のみ)を集計する。